

峡北自動車整備協業組合

変わりゆくクルマ社会に

対応するために

ACTIVE KUMIAI



長坂町にある組合工場

長野との県境、北杜市内をほぼカバーする峡北地域市民にとって「頼もしい『民間車検場』として活発な活動が行われている峡北自動車整備協業組合(中山武徳理事長)」。組合員11社+準組合員4社からの『自動車の継続検査・新規検査及び構造変更検査等に伴う定期点検整備』、つまり『車検整備』を中心に事業を行う一部協業組合である。

設立は昭和52年、地方都市において自動車の保有台数が飛躍的に伸びた時代であり、日本全国で自動車の台数は3,000万台を超えるとともに昭和33年以降、自動車事故により亡くなられた方も毎年10,000人を下らず、『安全・安心な車社会の担い手』として地域より望まれて組織化がされた。

当組合には毎年2,000台の大型貨物自動車から普通・小型軽自動車までありとあらゆる車が入庫する。

組合事務長に近年の環境問題やガソリンの高騰に伴う自動車社会の変化について伺うと、「一時期は車検の安売店の出現や自動車用品販売店のこの業界への参入により、前年度と比べ120台減の年もあった。ただ近年は組合員各社の努力によって受入台数はほぼ安定している。しかし、消費者は景気動向に正直に反応していることが、入庫してくる車両の小型化に表れている。台あたりの単価(車検にかかる費用)が下がっており、さらに原油価格高騰や鉄鋼の値上がりも影響し、消耗品である油脂類、工具類が昨年に比べて高いモノは1割以上値上げされている。電気や水道、ガスなど一般家庭と同じように節約をして収益確保に努めているが、非常に厳しい。」とコメントされた。

来年からはいよいよ日本の自動車メーカーから完全な電気自動車が発売される。それに伴う設備投資や専従技術者の研修等も必要となってきた。おり、将来に向けては後継者の育成と優れた人材の安定的な確保など課題は多い。クルマ好きの筆者としては、いつまでも自動車社会が続くことを願い、変わりゆくクルマ社会に迅速に対応した庶民の『味方』であるこの組合・業界の永続的な発展を切に願うものである。



工場には7名の職員が勤務する